

第 二 問

次の文章は、「戦国策」の一説である。後の設問に答えよ。

楚有祠者。賜其舍人卮酒。舍人相謂曰、「数人飲之不足、一人飲之有余。請画地为蛇、先成者飲酒。」一人蛇先成。引酒且飲之。乃左手持卮、右手画蛇曰、「吾能為之足。」未成、一人之蛇成。奪其卮曰、「蛇固無足。子安能為之足。」遂飲其酒。為蛇足者、終亡其酒。

問一 この文章はとある故事成語の元になっている。その故事成語を答えよ。

問二 「引酒且飲之」を平易な現代語に直せ。

問三 「為蛇足者、終亡其酒」とあるが、それは何故か答えよ。

問四 この文章は、楚の国の將軍昭陽が魏の国に勝利し、そのまま斉の国を攻めようとした際に、斉の国の使いの陳軫が攻撃をやめるよう説得した時に用いたとされている。このことをふまえて陳軫はどのように説得したと考えられるか述べよ。

問五 陳軫は縦横家と呼ばれる諸子百家のひとつの学派であったとされている。次の選択肢のうち、縦横家の人物と考えられている人物を一人選べ。

ア 荀子

イ 韓非

ウ 蘇秦

エ 老子

問六 縦横家の有名な外交方針には「合従策」と「連衡策」が挙げられる。これらの考えについて、時代背景を考慮して答えよ。

解答

問一 蛇足

問二 酒を引き寄せて今にもこれを飲もうとした。

問三 蛇には足がないのにも関わらず、蛇の絵に足を書き足してしまい、蛇の絵として完成させられなかったから。

問四 魏に勝ったという功績が既に十分なものであるのに、それに加えて斉を攻めようとすることは「蛇に足を描く」ような無駄な行為であり、かえって本来の価値を損なうおそれがあると説得した。

問五 ウ

問六 当時強大な勢力を誇っていた秦に対して、「合従策」は残りの六か国で共同戦線を張り秦に対抗しようとしたのに対し、「連衡策」は残りの六か国全てに秦と同盟を結ばせることで自国の利益を確保しようという考えである。

楚^ニ有^リ祠^ル者^一。賜^フ其^ノ舍^人。酒^ヲ。舍^一人^ニ相^{ヒテ}謂^{ハク}曰^ク、「数^{ニテ}人^ニ飲^{マバ}酒^ヲ。之^ヲ不^レ足^ラ、一^{ニテ}人^ニ飲^{マバ}之^ヲ有^リ余^リ。請^フ画^{キテ}地^ニ為^リ蛇^ヲ、先^ヅ成^ル者^ニ飲^{マント}酒^ヲ。」一^ノ人^ノ蛇^ヲ先^ヅ成^ル。引^{キテ}酒^ヲ且^ニ飲^{マント}之^ヲ。乃^チ左^{ニテ}手^{ニテ}持^チ卮^ヲ、右^{ニテ}手^{ニテ}画^{キテ}蛇^ヲ曰^{ハク}、「吾^ク能^ク為^{ルト}之^ガ足^ヲ。」未^ダ成^ラ、一^ノ人^ノ之^ノ蛇^ヲ成^ル。奪^{ヒテ}其^ノ卮^ヲ曰^ク、「蛇^ヲ固^{ヨリ}無^シ足^ヲ。子^{クンゾク}安^ニ能^ク為^{ンヤトガ}之^ノ足^ヲ。」遂^ニ飲^ム其^ノ酒^ヲ。為^ル蛇^ノ足^ヲ者^一、終^ニ亡^{ヘリ}其^ノ酒^ヲ。